

II 冬作緑肥作物の使い方

■イネ科・マメ科の主要な緑肥作物を栽培する場合、園芸作物等の様々な作付体系に合う草種・品種を選定することが大切です。

①エンバク「とちゆたか」……エンバクの中では多くの作付体系を持ち、春播き・夏播き・秋播きで短期間に多量の有機物を生産できます。

表 「とちゆたか」の収量性 (乾物収量 kg/10a)

| 品 種 | 春 播 き (栃木県鹿沼市) | 夏 播 き (千葉研究農場) | 秋 播 き (宮崎試験地) |
|---------|---------------------------|----------------------|-------------------------|
| とちゆたか | 339 (112) | 820 (111) | 867 (148) |
| オールマイティ | 304 (100) | 741 (100) | 584 (100) |
| 備 考 | 昭61.5.10播→7.1刈 コンニャク間作 | 昭60.8.24播→ 12.12刈 | 昭60.11.8播→ 昭61.5.22刈 |

②エンバク「ヘイオーツ」……寒高冷地での耐寒性はやや劣るが、春播き、短期間での収量が高く、細茎で分げつ多く、残根量が少ないため後作の耕起作業が容易です。

③ライムギ「初春」……エンバクに比べ低温伸長性が高いため1～2か月遅播きが可能で、早春の生育も極めて優れるため、早春に多量の有機物をすき込めます。

④イタリアンライグラス「マンモスB」(4倍体)……耐湿性に優れるため水田裏作・転換畑での栽培に適し、春播きでの収量性も高く転換作物の前作に最適です。

寒高冷地では耐寒性に優れる「エース」が効果的です。

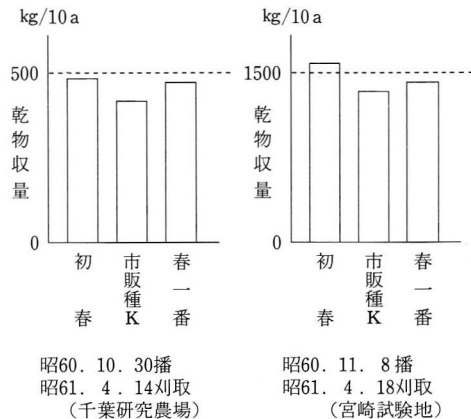


図 「初春」の早春の収量性

⑤アカクローバ……小麦の連作障害対策として、春先の追肥時期に混合して播種し、9月前後にすき込みます。

アルサイククローバと同様に水田裏作として水田落水後播種し、春先にすき込みます。

⑥クリムソククローバ、アローリーフクローバ……畑地土壌での生育が旺盛で、10月に播種し、早春での生育が極めて優れ、多量の窒素を供給できます。

⑦レンゲ……水田裏作の代表的草種で、マメ科作物中で最も開花期が早く、4月中旬にはすき込みます。